脱炭素社会実現計画の骨子案【概要】

R5.2.7現在

■目標　　2050年までに、雲南市における温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す。

■基本コンセプト案　『生命と神話が息づく持続可能なまちづくり』
- ○暮らしの豊かさの向上
- ○レジリエンス（適応力）の向上
- ○地域経済循環の向上

■プロジェクトごとの基本方針

再生可能エネルギーの推進

●最大限の導入と、複合的なエネルギー源の確保に努める。
●地産地消による地域経済循環を目指す。

・太陽光発電は、最も導入しやすく、可能な場所への設置を進める。ただし、環境破壊や災害リスク、景観への影響が懸念される場所へは設置しない。また、土地の有効活用の観点から、他に活用の目途がない場所を除き、地面への直置きではなく、2階建て方式を推奨（維持管理上の課題が想定される場合を除く）。
・水力発電は、最も安定した電源で稼働率も高いため、可能な限り導入を進める。
・木質バイオマス発電は、安定して資源確保ができるのであれば導入を進める。ただし、乱伐にならないよう、計画的な資源確保に努め、伐採後の林地再生を図る。
・風力発電は、大型風車方式にあっては、影響を慎重に判断する必要があり、関係法令に則り、関係住民への説明を丁寧に行い、住民理解が得られることを設置の前提とする。
・太陽熱は、比較的安価で、技術も確立されているため、可能な場所への導入を推奨する。
・工場等の廃熱は、できるだけ活用する。
・水素エネルギーは、今後の動向を注視。

省エネの推進

●公共施設）新築時には可能な限りZEB化を目指し、既存施設にあっては、公共施設等総合管理計画との整合を図り、改修時に可能な限りZEB化を目指す。

●一般住宅）設計・施工事業者と一緒に「快適性と経済性」を訴求し、体感できる機会を設け、普及推進していく。

●事業所）既存の省エネ診断も活用し、「コスト低減効果」と「働きやすさ」を訴求し、勉強会や事例紹介などで推進。

森林資源の活用

●針葉樹）①木造建築、建材利用をより一層推進していく。②森林整備によるJ-クレジットの市内取引を推進する。③脱プラ対策として、木製品への活用を推進する。

●広葉樹）薪ストーブ、薪ボイラーの普及を推進する。

●竹材）竹炭に活用し、土壌改良材として農地施用することにより、J-クレジットも適用し、農業振興に活用する。その他の用途も模索していく。

ゴミゼロ社会の実現

●全国トップクラスのリサイクル率を目指していく。
●生ゴミの減量化、堆肥化を推進する。
●奥出雲町、飯南町との意思疎通、共通認識を図る。
●事業者買取が期待でき、保管時の問題が生じにくいゴミは、常設の回収ステーションを設けていく。
●スーパーマーケットやコミュニティでの取り扱いを推奨し、集客、交流の推進に役立てる。

全体を支える仕組み

●財源の確保
・多額の資金が必要になることから、あらゆる財源の確保に努める。
●人材育成
・若い世代が関わりやすい機会を設ける。
●企業チャレンジとの連携
・連携可能な企業があれば、企業チャレンジの一環として連携協定の締結を視野に入れて進める。
●生物多様性との関連
・コウノトリ関係など、関連施策と協調して取り組んでいく。
●DXの活用
・他の施策とも連携し、DXを活用していく。
●推進体制
・市民、事業者、行政が一体となって推進していく。
・近隣自治体、流域自治体と情報交換を進め、広域的な連携も模索していく。